

人間科学専攻

あら せき ひと し
荒 関 仁 志 教授

専門分野：安全学，人工知能，進化計算，教育支援システム開発

特別研究の研究領域

人工知能や統計計算などの数理モデルを応用した安全学に関する分野。または，リスク管理や安全教育のための支援システム構築に関する分野。

例えば以下のような研究課題が考えられる。

- 1) 安心・安全における事例発生^の統計的処理の研究
- 2) ベイジアンネットワークの利用によるリスク管理手法の研究
- 3) 適応型人工知能を応用した最適行動の研究
- 4) リスク管理のためのデータベースの開発
- 5) ヒヤリハットを疑似体験させるための教育支援システムの開発
- 6) 安全教育支援のための電子教科書の開発

特別研究の指導及び研究上のポイント

人間科学の分野では，統計処理などの数理的取り扱いが重要であることは分かっていますが，多くの学生が数理的取り扱いを苦手としています。本特別研究では，この数理的な取り扱いを，各自が十分に理解できるように指導します。また，初めは馴染みが少ない数理学的研究も，ゼミ等の議論を通じて各自が理解することを目指します。また，自分の研究テーマに関連したものだけでなく，様々な研究論文を読むことも必要となります。

特別研究の進め方

基本的にはメールやサイバーゼミを利用した議論を行いますが，各自の積極的な参加が重要となります。夏期・冬期・春期休暇を利用して面接指導を実施します。また，夏期の早い時期にゼミ合宿を行い，各自の研究テーマを深く理解するために，研究テーマに沿った議論を行います。

計画の詳細は以下の通りです。

- 1年次（前半）：研究方法についての議論と関連文献に関する検討。
- 1年次（夏期）：ゼミ合宿にて，具体的な研究方法の決定。
- 1年次（後半）：研究テーマに関する周辺研究の検討。研究方法の詳細の検討。
- 2年次（前半）：研究方法の詳細の検討。
- 2年次（夏期）：ゼミ合宿にて，各自の研究の進捗状況の報告と議論。
- 2年次（後半）：論文執筆。草稿のチェック，最終稿作成，修士論文の提出。

特別研究の研究領域

ヒトの健康の向上に関し、医療・福祉、産業保健衛生等、及び生命科学に関わる分野。例えば以下のような研究課題が考えられる。

- 1) 健康診断データに基づいた、健康度の判定
- 2) QOL 向上のための工学的ツールの研究開発
- 3) 職場や日常生活におけるストレス度の判定、及びその軽減策の検討
- 4) 医学の各診療・治療ガイドラインの臨床応用に関わる問題点
- 5) 治療やリハビリに対する本人の認識と意欲、及びその治療効果との関連
- 6) 医療・介護現場における各種の手技のリスク・アセスメント、その対策と経済的バランス
- 7) 中長期休職者が職場復帰した際の問題点と、その対応策の検討（身体・精神疾患の両者）
- 8) 長期宇宙滞在等の極限環境における心身の問題点とその対策法の検討
- 9) 生体・細胞の形態維持に関わる物理化学的法則の検討

特別研究の指導及び研究上のポイント

どのような研究課題を設定するにしても、人体の生理・生化学の基礎知識を踏まえることが重要です。医療分野では各種の診療に関し、ガイドラインが定められていますが、その基となっている研究・文献まで遡って考察することも求められます。臨床で現場を経験された方は、その時の体験や疑問に感じたことを出発点にすると良いと思います。ヒトを対象とした研究では倫理審査が必要となる場合がありますが、かなりの時間と労力を要するので、早めの準備が必要です。

特別研究の進め方

基本的にはネットワークによる対話を活用しますが、夏期・冬期・春期休暇を利用して面接指導も実施します。また、夏期の早い時期に2泊3日のゼミ合宿を行い、研究発表を実施すると同時に、ゼミ生間の親睦を深める予定です。計画の詳細は以下のとおりです。

- 1年次（前半）：具体的な自分の研究テーマの決定。研究方法を決め、研究方法についての学習。
同時に、関連文献の収集。
- 1年次（夏期）：ゼミ合宿への参加、可能な範囲で研究計画の発表を行う。
- 1年次（後半）：論文作成に必要な実験・調査計画を作成。
- 2年次（前半）：研究テーマと研究計画の再確認（計画の一部修正も可）。実験・調査などのデータ収集の開始。統計的分析方法の学習。
- 2年次（夏期）：ゼミ合宿で中間発表を行う。
- 2年次（後半）：データの分析。論文執筆。草稿のチェック、最終稿作成、修士論文の提出。

特別研究の研究領域

西洋近世哲学の領域で宗教に関するテーマが望ましい。特にカント、ヤスパース、ティリッヒにより解明された宗教的世界やそれに関連した個別テーマを取り扱うことが望ましい。たとえば宗教へのアプローチのためのキーワードとして象徴、アナログア、暗号、および spirituality などである。これらを上記の哲学者のテキストから読み解き、宗教におけるその意義を考察してほしい。ただ spirituality に関しては多様なアプローチが可能なので鈴木大拙等日本の宗教家を研究することも可。

特別研究の指導及び研究上のポイント

テーマの選定にあたっては、まず初めに自分がなぜそれを選んだか、それを研究することによって自分は何を言いたいのかを明確にすること。また、そのためのメインのテキストに関しては内容を正確に理解することが重要であると同時に、それに関する基本的な参考文献も読んでおくことが必要である。そうすることによって自分の理解・解釈の妥当性と独創性がはっきりするであろう。

特別研究の進め方

1年次においては春季から夏季にゼミ学生全体の面接・指導をおこない、修士論文に向けての心構えとその準備としての文献収集・考察を指導。1年次終わりに論文テーマを絞り込みその概略を作成報告。

2年次の春の段階でもう一度テーマについて確認し、これまでの進捗状況を報告する。夏季において各自中間報告をおこなう。つまり、研究テーマに関する発表、質疑、応答をすることで論文の最終確認をする。冬学期には完成論文の発表会をおこなう。

なお、メールによる質疑応答を基本とするが、必要に応じて月1回そのための学習会を開催する。

特別研究の研究領域

初等教育・中等教育・高等教育など学校教育全体に関する教育の制度、内容、方法、評価の研究、ならびに日米の教育制度の比較研究を研究対象領域としている。

- 1 学校教育の起源と発展に関する日米の教育制度の歴史と思想
公教育制度の歴史と理論、教育行政、テスト政策、各国の教育政策
- 2 教育内容、方法、評価に関する歴史と理論、評価やテストに関する歴史と思想
カリキュラムや教授方法の歴史と理論、評価やテストに関する歴史と思想
- 3 現代の日米の教育制度改革の理論と実態
日米の新自由主義と新保守主義の思想の比較研究、日米の教育制度改革の実態
- 4 大学教育の理論と実態
大学のカリキュラムと教授方法、FD、TA、PD問題、アメリカの高等教育

特別研究の指導及び研究上のポイント

なるべく多くの資料を多角的に読み、先行研究の到達点と自己の研究課題の差異性を明確にする。以下の視点に留意する。

- 1 歴史的な視点。歴史的な視点から、研究課題の経緯と問題を明らかにする。
- 2 現代的な視点。現代的な視点から、今何が問われているかを明らかにする。
- 3 思想的な視点。思想的な視点から、研究課題の理念や本質を探る。
- 4 比較研究の視点。他国の事例や思想を参考にしながら、我が国の問題を探る。

特別研究の進め方

可能な限り、ネットワークによる対話を活用する。

夏期、冬期、春期休暇を利用して、面接指導を実施する。

2年次の夏期休暇中には2泊3日の合宿によって、修士論文の中間発表（作成計画や概要）を実施し、論文作成計画を完成させる。冬期休暇中には最終発表会を実施し、修士論文の内容を発表する。

特別研究の研究領域

1. 「教育」・「学習」に関する研究。とてつもなく広い領域ではあるが，その考察・調査の対象における「学習」のもつ意味を問うもの。（例：PISA 型学力と新しい学力観， etc）
2. 制度的な研究。歴史的な研究。比較考察の視点を含む考察。（例：近代日本における教員養成課程の変遷， インターナショナルバカロレアに関する比較研究， etc）
3. 方法・評価に関する研究。（例：ヴィゴツキーの活動学習理論， etc）
4. 地域における特色のある教育。（例：横浜市における教育型青少年ボランティア活動， ヘルシンキのデイケア・スクールのカリキュラム変容について， etc）

特別研究の指導及び研究上のポイント

研究テーマの設定と，その考察により“何を明らかにしたいのか”を固めていくことが大切です。“（期間内に）どこまで明らかにできるのか”“どのような方法ならば導き出せるのか”という方法論・評価の視点や，先行研究の探索が重要です。すぐれた先行研究，テーマは異なっても視点の重なる研究（ヒントになる研究）を見極めるのも「研究」でつく力だと考えています。自分が明らかにすべきテーマは何か？ 資料の読解力，論理の展開と構成（文章），調査の方法に慣れるために，研究書（文献）を読むことをおすすめします。

特別研究の進め方

- ・ 1年次の早い時期より，研究の視点や研究のペースについて面談やネットワークをつかっの相談を開始する。
- ・ 夏期・冬期，春期休暇を活用して，面接指導を実施する。
- ・ 2年次の夏期休暇中には2泊3日の合宿を行い，修士論文の中間発表（作成計画や概要）を実施し，論文作成計画を完成させる。冬期休暇中には修士論文の内容について最終発表会を実施する。

特別研究の研究領域

おもに西洋の17世紀以後の哲学，倫理学，美学分野の古典的な思想家についての研究が望ましい。科学技術や応用倫理分野の研究も除外しないが，個別の問題について考えていくためにも，自らの人間観，社会観，倫理観，言語観，芸術観，科学技術観などについての反省的考察が不可欠だからである。私たちは何者か，何を知り，何をなすべきで，どのようにして秩序を生成しつつあるのかなどについての包括的な洞察をめざし，思想史に名を残すような古典的な思想家の代表的な著作を幅広く，かつ，じっくりと読み，思想家のテキストや先行研究との対話を媒介として論考を進める本格的な研究が望ましい。

特別研究の指導及び研究上のポイント

研究したい主題は何か，そのためにどのような課題を探求することを通じてその主題を考えていくのかを熟考し，自分が探究できる形にまで主題と課題を洗練させることが大切。先行研究がひらいた地平を明らかにしながら，それらが十分に探究していないどんな「問い」に，どのような「課題」を通じて迫っていくのかという骨組みを終始意識して，「主題」と「課題」の設定を検討し続けること。研究論文の生命は，問いの設定にオリジナリティがあることと，その問いをめぐる思考，探究，論証，展開プロセスに説得力があることであり，結論のもっともらしさでも，表現の芸術性でもないということに留意すること。

特別研究の進め方

1年次の5月までに，研究計画（主題とそれに迫るための課題，たとえば精読する一次文献や二次文献の一覧など）を作成し，それに基づいて進めた研究成果を，夏休み中に研究レポートとして報告。それをもとに新たな修論の構成案を策定し，翌年の1月までに進めた研究の成果を2月に研究レポートとして報告。それをもとに3月中に修士論文の明確な主題と課題を確定。2年次は，1～1.5か月に1度程度，作成中の修論の一部を研究発表。夏休み中に中間発表後，修論の完成をめざす。

特別研究の研究領域

初等・中等・高等教育など学校教育全体にわたる学級や学校の仕組み，そこにおける教育の営みや内容を対象として，日欧の比較教育の視点から取り上げて行く。

- 1 17・18世紀以降の近代ヨーロッパと近代日本の学校教育のはじまりとその発展に関する制度とその思想的・歴史的根拠を探究する。
- 2 思想的・歴史的な立場から今日的テーマとしては，公教育制度の諸課題・理論，教育行政の内容，学校の教育内容・方法，教師と子どもの教育関係のありようとそこで生ずるいじめ・不登校・問題行動など，学校行事・部活動のなどの指導，そして教員資質の内容とその課題などがあげられる。

特別研究の指導及び研究上のポイント

まずテーマの選択に当たっては，自分が最大限に興味・関心のもてるものであり，少なくとも1年長らく楽しめるようなテーマにするのが望ましい。そして，そのテーマはできるだけ具体的な対象であり事実であり，またそれを細分化し豊富に章立てができるようなものであり，これらの内容を明確に自分の言葉・論理で説明できるようにして下さい。

その上で，自分のテーマに関する先行研究書・論文，文献・資料などをできるだけ豊富に集め，それらを丹念に正確に根気よく読み，そのつど要点をまとめると，うまく行くでしょう。この作業を自分の関心・課題に沿って1年間ほど継続すると，おのずと自分の書きたいこと・論述したいことが出来上がるでしょう。

特別研究の進め方

- 1 4月の早い段階で，個別に面談を行い，各自の興味・関心のあるテーマについてヒアリングを実施する。ネットワークによる対話も活用する。
- 2 2年次の夏期休暇中に2泊3日の合宿を行い，各自の論文（テーマ）を中間的に発表してもらい，全員の討議のなかで各自の論文全体の概要を作成する。
- 3 冬期休暇中には最終発表会を実施し，修士論文の内容を発表する。

特別研究の研究領域

組織や職場での不公正・不公平感の諸要因とその心理学的影響を中心とする研究テーマ。

1. 従業員が職場で行う自発的な役割外行動
2. 公平（あるいは不公平）な処遇が従業員の行動に及ぼす影響
3. 公正な人事評価を阻む心理的バイアスの種類とその対処方法（多面的観察評価法など）
4. 職場における従業員の問題行動（職場いじめ、セクシュアル・ハラスメントを含む）
5. 目標管理制度についての心理学的研究

特別研究の指導及び研究上のポイント

研究テーマがどのようなものであっても、心理学の基礎知識や基本的な研究方法の習得は欠かせません。したがって、2年間はだいたい以下のような計画で研究を進めるとよいでしょう。1年次の前半では、研究テーマに必要と思われる心理学研究法を学習してください（特に、学部で心理学を専攻しなかった方は必須です）。後半では、自分の研究テーマに関連する論文の収集を行ってください。論文の入手法も適宜教えます。論文の収集は、研究テーマに関連した数多くの文献にあたるのが望ましいでしょう。研究テーマに問題や修正が生じたときには、個人面談か随時 e-mail で相談しながら進めます。1年次までにやるべきことはかなり多く大変ですが、何とか乗り切ってください。

2年次の前半では、具体的な研究計画の作成と実験・調査などのデータ収集を行ってください。後半でデータの分析を行い、論文執筆に取りかかります。この際、論文の書き方については、都筑学『心理学論文の書き方おいしい論文のレシピ』（有斐閣）が必読です。データ分析については、論文作成に必要な統計的手法を自分で修得しなければなりません。論文作成の過程では、書式や分析方法の細かな指導を行うつもりです。

特別研究の進め方

基本的にはネットワークによる対話を活用しますが、夏期・冬期・春期休暇を利用して面接指導も実施したいと思います。可能ならば2泊3日のゼミ合宿で研究発表会を実施したいと考えています。計画の詳細は以下のとおりです。

- 1年次（前半）：具体的な自分の研究テーマの決定。研究方法を決め、研究方法についての学習。同時に、関連文献の収集。
- 1年次（後半）：論文作成に必要な実験・調査計画を作成。
- 2年次（前半）：研究テーマと研究計画の再確認（計画の一部修正も可）。実験・調査などの収集の開始。統計
- 2年次（夏期）：ゼミ合宿の開催。中間発表を行う。
- 2年次（後半）：データの分析。論文執筆。草稿のチェック、最終稿作成、修士論文の提出。

特別研究の研究領域

「コミュニケーション」、「学習／訓練」、「知覚」、「マルチメディア」、「行動分析学」などのキーワードを組み合わせた研究領域、あるいはそのいずれかの研究領域を主たる対象とする。例えば、以下の様な研究テーマがある。

1. 職場（例えば病院）でのコミュニケーションの改善
2. コミュニケーションスキルの開発プログラム
3. 行動分析学を用いた教育・臨床
4. マルチメディアを用いた聴能訓練
5. 視覚と聴覚の相互作用
6. 動物の知覚
7. 乳幼児の知覚
8. 行動分析学に基づいた各種スキル訓練
9. 高齢者の転倒予防訓練

複数の領域にまたがるような研究を歓迎する。

特別研究の指導及び研究上のポイント

どの様なテーマを研究対象とするにしても、心理学の方法論や基礎知識が必須です。1年次は、研究テーマに必要なと思われる心理学研究法を学習し、その後、研究テーマに関連する論文の収集・研究を行います。2年次は、実験・調査などのデータ収集と分析を行い、修士論文を仕上げます。このとき、論文の書き方や分析に必要な統計法などの指導も行います。

特別研究の進め方

1. 1年次の出来るだけ早い時期（4月～5月）に、各自の研究テーマを決定し、修士論文を仕上げるのに必要な知識・技能を見極め、その学習に取りかかる。指導は、面接ゼミやサイバーゼミ・学習掲示板を併用する。
2. これと平行して、研究テーマに関係した論文収集を行う。
3. 研究テーマに問題や変更が生じた場合は、逐次、面接や学習掲示板での相談を行い、出来るだけ早期に修正する。
4. 夏期（7月～8月）、合同のゼミを開き、各自の研究テーマの発表・質疑・応答を行う。
5. 1年次の終わりまでに、実験・調査の計画の概略を作成する。
6. 2年次始めにもう一度研究テーマと研究計画の確認を行う。
7. 実験・調査を開始する。
8. 夏期（7月～8月）、合同のゼミを開き、各自の研究テーマの発表・質疑・応答を行う。
9. 研究に問題などが生じた場合は、その都度、個人面談あるいは学習掲示板での相談を行う。
10. 修士論文を提出する。

特別研究の研究領域

自己と対人関係，不安，情動と行動，などをキーワードとして，心理学を基本とした研究領域を対象とします。

特別研究の指導及び研究上のポイント

自分が何に興味があり，何をしたいのか，をまず明確にすることから始めます。その後，それをどのように心理学の方法で行うのか，を考えます。そしてそれを具体的に研究として進めるために，必要な資料，文献等の講読から，実際にデータの収集，整理，分析を行い，考察を行います。論文としてまとめる，という作業も大事にしたいと思います。

特別研究の進め方

1. 1年次夏休みを目安にテーマを具体的に絞り込みます。後期には研究遂行に必要な資料，論文等の収集を行い，まとめます。
2. 研究方法についての基礎知識の獲得と，具体的な実施方法を検討します。
3. 2年次初めに，研究テーマと具体的な研究実施計画の確認を行い，データ収集を行います。
4. 2年次後期に，データの検討，考察を行い，論文執筆に取りかかり，修士論文を仕上げます。
5. 可能な限り直接的コミュニケーションをとりたいと思いますので，面接，合同ゼミナール，等の手段を計画します。積極的に参加することを望みます。

特別研究の研究領域

パーソナリティ（性格）やパーソナリティの認知（人や自分の性格を判断すること）に関することなどを扱う。たとえば，次のような領域が考えられる。

- 1) パーソナリティやパーソナリティ認知の発達，
- 2) パーソナリティと適応に関すること，
- 3) パーソナリティの発達やパーソナリティ認知の文化的要因，
- 4) パーソナリティ評価と行動の関連に関すること，
- 5) 感情とパーソナリティ認知の関連に関すること，
- 6) 臨床的記述と日常的パーソナリティ表現の関連に関すること，
- 7) 対人相互交渉に関すること，
- 8) ささまざまな場面（企業・臨床など）におけるパーソナリティの測定・評価に関すること。

特別研究の指導及び研究上のポイント

論文の作成を目標として，各自がテーマを決定し，具体的な研究を進めていく。そのためには，興味のある分野の基本的考え方や知識を学ぶことが必要。自分の疑問を大切にし，興味のある分野の専門書や論文を数多く読み，その中で自分の疑問を位置づけ，具体的な研究テーマに発展させる。1年次には主に文献研究が中心。データのとり方，分析の仕方なども学ぶ。2年次に実際に実験・調査などデータの収集・分析を行う。

特別研究の進め方

可能な限り e-mail 等を活用して，対話を進める。また，適宜，面接指導を行う。個別的な指導が中心であるが，全体での報告会・討論会など適当な時期・場所で実施する（月1回程度）。具体的な予定は次のとおり。

1. 1年次の早い時期に各自のテーマを決定する。そのためには，関心のある分野の先行研究を収集することが必要。
2. 各自のテーマにあわせて，具体的な研究方法を検討し，研究計画を作成する。
3. 1年次後期～2年次前期に実験・調査を実施する。
4. データの分析，論文の執筆。

特別研究の研究領域

科学・技術に関するもの一般，科学史，現代倫理学，ロジカル・シンキング，これらを対象とするものが望ましい。物理学や環境論などでも，哲学的に論じるのであればかまわない。

特別研究の指導及び研究上のポイント

必ず，なぜそのテーマにしたのかという点を明確にした上で研究をスタートさせることが必要である。またテーマについて，様々な視点から眺めて検討すること，それを論理的に展開・表現することなどについても指導していく。

特別研究の進め方

- ・1～2カ月に1回ペースで面接授業を行う予定です。それ以外は，適宜メールなどを活用して指導します。
- ・夏期または冬期の合宿にて，研究発表・討論・輪講などを行います。
- ・1年次の夏までには研究テーマを設定してもらいます。その後は進捗状況の確認及び修正を行い，各人に合わせて研究を進めてもらいます。

特別研究の研究領域

研究領域は，教育の方法に関する思想史研究，学習指導や生徒指導に関する理論やその比較研究，教育メディアに関する理論的研究などである。

1. 教育の方法やカリキュラムに関する思想的・歴史的研究：教育方法やカリキュラムの理論と歴史
2. 生徒指導や道徳教育に関する理論・歴史・比較研究：人間形成，道徳教育，いじめ，不登校など
3. 教育メディアに関する理論的研究：教育におけるメディア及び教材に関する理論的研究

特別研究の指導及び研究上のポイント

まずは，研究テーマについて改めて深く検討し，関連する文献（図書及び雑誌論文）を収集することです。次に，収集した先行研究を批判的に検討し，自分の研究課題を明確にします。研究課題を設定する際に，歴史的・思想的な視点や比較研究の視点などから検討することで，研究の方法についても考えていきます。研究論文は，文献や資料などを手がかりに自分の主張の根拠を示すことが不可欠ですが，自分で問いを立て，自分で考え，自分の言葉で語るということの基本を大事にしてください。

特別研究の進め方

- ・1年次は，各自の研究テーマについて検討しながら，論文作成の手順や方法を学び，論文作成の準備を始める。指導の際には，面接やネットワークによる対話を併用する。
- ・2年次の夏期休暇中には，各自の論文の作成計画や実施内容についてゼミで発表し，論文作成計画を完成させる。
- ・2年次の冬期休暇中には，ゼミで最終発表会を実施し，修士論文の内容を発表する。